

THE リアルタイム

発行者 サポートセンター連 広報担当 横浜市旭区柏町 59-2 Tel 045-360-9778 Fax 045-360-7004

社会福祉法人 訪問の家 ホームページ <http://www.houmon-no-ie.or.jp/>

旭区地域自立支援協議会 ホームページ <http://asahiku-net.com/>



Real shot



連では、毎月一回土曜日に土曜デイサービスという余暇活動を行っています。昨年までは第一、第三と分かれて活動してきましたが、今年度から二つのグループが統合しました。《地域のボランティアの方々との関わりを深めていきたい、様々なことにチャレンジしていきたい》をテーマに行っています。

七月は「竹道会」による尺八や三味線を使用した民謡の演奏、九月にはフラダンスの鑑賞をしたあと、みんなでフラダンスを踊りました。そして、今回十月は「よこはまミュージカル牧場」にお越しいただき、歌やダンス、演劇などを鑑賞しました。知っている曲も多く、みなさん身体を揺らしたり歌を口ずさんだりとても楽しいひと時でした。「観て」「聴いて」「参加して」お互いに盛り上がる事で一つのステージが出来上がったように感じます。

今の世の中厳しい状況が続ぎ、今まで当たり前に出来ていた事が自粛になり暗い気持ちで過ごしている方が多いと思います。余暇活動を通して楽しい時間を共有し、喜びを分かち合う大切さや、当たり前の日常に感謝の気持ちを伝えられているのか考えるきっかけにもなりました。

これからも土曜デイサービスでは、引き続き地域との繋がりを大切にし、人との関わりを広げていきたいと思えます。

(秋山)

自慢のシニアスタッフ！・・・の巻

Uさんは、70代後半の年齢ながら、今も私ども施設の介護現場でパワフルに働く頼もしいスタッフです。彼は朝早くに出勤し、施設前のバス通りにある大きな歩道を掃除してくれます。特に役割としてお願いしているわけではないのですが、いつの頃からか、Uさんの朝の姿があたりまえの風景となり、そして、いろんな人が出入りする連の玄関先は、日々きれいな朝を迎えられています。

Uさんは、大型トレーラーの運転一筋で男気溢れる現役時代を生き抜いてきました。そして、定年後にたまたま見かけた求人広告に載っていた、連の送迎ドライバー募集がきっかけで働くようになりました。面接時に印象的だったのは、施設内の利用者さんを見て、「あの患者さんたちとはどう関わればいいのかね？」と、福祉とはまったく別世界で生きてきた彼にとって、障害の人たちは患者さんに見えたようです。それから10数年、75歳で送迎ドライバーを引退した後も持ち前の体力を活かし、今は介護含め、利用者さんとより密接にかかわる現場で活躍しています。

さて、私ども連には、現役を引退（定年退職）された方たちが複数働いています。特に送迎ドライバーのスタッフについては、全員が定年後の仕事として従事してくれており、皆さん実にさまざまな職歴をお持ちです。路線バスの運転手、発電所機械の技術者、公務員、大手企業の管理者など、考えてみれば、日本の高度経済成長期やバブル経済期など、血気盛んな厳しい時代に、それぞれの立場で社会を支え、そしてさまざまな経験をしてこられた方たちです。

少子高齢化を迎えている日本は、高齢者雇用安定法（2013年）の改正によって、定年後や65歳以上の方であっても、働ける仕組みの整備が進んでいます。また、老後の年金問題といった不安を抱える中、「働けるうちは・・・」といった心境の方も多いかと思います。（明日は我が身ですが・・・）

以前の私は、定年後のシニア世代に向けた“働くチャンス！”として、施設業務の一部を「お手伝いしていただく」といったような、ある意味、救済的捉えも正直あったかと思います。しかし、シニアスタッフ一人一人との出会いを通して、その捉えは大きく変わってきました。

ある方は、利用者さんが快適に乗車できるように、出発前の車内を念入りに掃除します。ある方は、元気がない若い職員を見かけると声を掛けて励ましてくれます。ある方は、ドライバー業務とは別に、活動中の利用者さんのそばに“ボランティア”としていてくれます。ある方は、事務所の出入り時に必ず立ち止まって深々と一礼します。冒頭のUさん含め、これらはすべて彼らのごく自然な姿です。

私たちの仕事は、利用者さんに安心感や信頼感を持っていただくためにも、社会人として相応しいマナー、即ちビジネスマナーのスキルが求められています。具体的には「相手の気持ちになって考える」「あらゆる準備を怠らない」「周囲に対する気遣いを忘れない」といった、福祉にも十分通用するとても大事な姿勢、行動を意味しています。現役の若いうちは、元気も力もあって身体もよく動きます。しかし、上記のような姿勢は、忙しさに紛れてついつい忘れがちになるものです。そんなとき、シニアスタッフの姿は、周りの職員から労われるどころか、日々励ましをもらい、仕事に対するエネルギーを与えてくれる頼もしいスタッフなのです。

ちなみに、Uさんが障害の人たちと関わる仕事をするようになって、昔の喧嘩っ早くて尖っていた頃では考えられないくらい、表情や話し方、話す内容が変わった・・・と、奥さまが一番驚いているようです。そして、Uさん自身も、価値観、人生観が変わった！としみじみ話してくれました。

まさに、福祉の仕事の“魅力”ですね。 （白鳥）



※ 連では送迎スタッフを募集しています！！ 詳しいことを伺いたい方はまず気軽にご連絡ください！

相談 nowadays

○相談支援事業より

私たちの相談支援事業では、障害のある方やそのご家族などのための総合相談支援機関として、様々なご相談をお聞きしています。障害の種別や、手帳の有無、相談内容に縛りはありませんので、たくさんの方からご相談をお受けするとともに、地域の方や関係機関とも連携して、地域づくりに取り組んでいます。今回は、地域の方とのエピソードと「地域生活支援フォーラム」のお知らせをさせていただきます。

障害がある方の一人暮らしを支えるもの ～ご近所さんの協力に感謝～

相談支援事業に、日々寄せられる相談の中で、印象的だったエピソードをお伝えします。

今年の暑い日に、一人暮らしをしている知的障害の女性から連絡がありました。「郵便ポストの鍵が錆びて開かない・明日までに必ず支払わなくちゃいけない払い込み書が入っているかもしれない。どうしていいかわからないんです・・・」この相談者の方は近くに身寄りもなく、頼れる人もおらず、苦手な電話を使い、やっとの思いで連絡してきました。

そこで、相談員が工具と潤滑スプレーを手に、自宅に急行し、郵便ポストの鍵を開けようとしたのですが、開かない・・・。相談者と汗だくになり格闘すること10分。同じアパートの住民の男性が、干していた布団を取り込みに外に出てきました。軽く会釈をし、再び開かない鍵と格闘していると、その男性が「どうしたんだ？」と声をかけてくれたのです。「郵便ポストの鍵が錆びて開かなくて・・・」と話すと「ちょっと待ってろ！」と言い、自宅に入っていました。そして、なんと工具を手にして戻り、あんなに苦戦していた郵便ポストの鍵をこじ開けてくれたのです！相談者も「まさか開けてくれるとは思わなかった。」と笑顔になり、男性にお辞儀をしきちんとお礼を伝えました。

今回の経験を通して、地域で一人暮らしをしている障害がある方は、福祉サービスだけでは解決できない困りごとが、私たちが思っている以上にたくさんあると思いました。そんなときに、近所の方や地域の方から手を差し伸べられることが、大きな支えとなり、地域生活を続けていくために必要な事だと感じました。改めて地域とのつながりについて私たち自身も考えさせられるエピソードでした。

地域生活支援フォーラム開催のご案内

毎年開催している「旭区地域生活支援フォーラム」についてご案内いたします。今回は、『障害者の8050、ひきこもりの8050』というテーマでオンライン開催となります。80代の親が50代の子の生活を支える8050問題、そして子の長期的なひきこもりについて、障害を切り口に、旭区の実践報告も交えて一緒に考えていきたいと思えます。

○第1部 基調講演 『障害者の8050、ひきこもりの8050』

○第2部 シンポジウム ～旭区の支援現場からの報告～

○12/13(日) 13:00～15:30 オンライン(ZOOM)で開催します。

ご興味のある方はぜひご参加下さい。

(※事前のお申し込みが必要です 〆切 12/4)

こちらのQRコードを読み取ってお申し込み下さい。



第13回 旭区地域生活支援フォーラム
オンライン開催

障害者の8050、ひきこもりの8050

～何が同じ？ 何が違う？～

80代の親が50代の子の生活を支える「8050問題」。この現代の社会課題の背景には、子の「ひきこもり」の長期・高齢化があります。ひきこもっている人の中には何らかの障害が原因となっており、生きづらさを抱えていることも多くあるのです。今回のフォーラムでは、障害を切り口に「8050問題」や「ひきこもり」について考えを深め、本人も家族も社会や支えから孤立せず、誰もが安心して暮らせる地域を作っていくために、みんなで考えができるかをいっしょに考えていきたいと思えます。

【主催】
旭区高齢・障害支援課

【共催】
旭区地域自立支援協議会

今年もZoom開催だよ！

日時 12月13日(日) 13:00～15:30
(接続開始: 12:30) 定員500名

第1部 基調講演 『障害者の8050、ひきこもりの8050』
講師: 又村 あおい氏

第2部 シンポジウム ～旭区の支援現場からの報告～

【又村 あおい氏 プロフィール】
昭和48年生まれ。平成7年、旭区(当時旭市)で障害児入居。平成11年頃から18年まで中野区(当時中野市)の障害児支援センターに在籍。障がい児福祉計画、支援制度、自立支援法の調査、障がい児支援実務委員会、平成26年度に内閣府(障がい者雇用推進・障がい者雇用の推進)へ参画。現在、全電子をつくる市民委員会 常務理事兼事務局。

連のクッキー銀座に行く！の巻き

今年8月より「株式会社ファンケル」の旗艦店である、銀座スクエア 8 階のカフェで連の利用者さんが製造しているクッキーを販売して頂いています。

販売に至った経緯は、銀座スクエアがリニューアルオープンをするにあたり元々20年以上交流が続いている、私たちの法人に「訪問の家の利用者さんが作っている焼菓子を販売したい…」とお声掛けがあったのです。お話しを頂いた時、連でも職員や利用者さんと検討し…不安もありましたが「是非、販売してもらいたい！挑戦したい！」という思いが一致し手を挙げさせていただきました。当初は4月にリニューアルオープンの予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言などがあり、8月のグランドオープンになりました。

多くの方々に連のクッキーを知っていただくチャンスをいただきまた連として、ファンケルの皆さんと年間を通してお付き合いする機会ができ、とても嬉しく感じています。

現在のコロナ禍の状況が落ち着いたら是非、利用者さんと共に銀座スクエアに行き銀座の雰囲気味わいつつ、販売しているクッキーを見に伺いたい…その時は販売している方のお話も伺えたら、更なるモチベーションに繋がると思います。



(支援課長 小原)

一方、連の製造チームは…

私たち、クッキー製造販売チームは銀座スクエアで販売して頂くクッキーと、連のこんがり工房で販売するクッキーを日々せっせと製造しています！

銀座スクエアでのクッキーの売り上げは好調！と聞き9月の連休のあとは、追加の注文も頂き 予想以上の売れ行きにみんなで「やったー！」と大喜びしました。

クッキーを製造しているのは、連の工房1所属の利用者さんです。工房1ではみんなで、ファンケル銀座店のホームページを見ました！

その中のカフェの店頭で、クッキーは販売されていました。製菓に携わるメンバーは…「自分の作ったものが銀座の人たちに食べてもらえると思うと嬉しい」と感慨深そうな表情でパソコンを眺めていました。

連のこんがり工房でもクッキーは好評で、多くの地域の方々にお買い上げ頂いています。製菓のメンバーが店頭で販売中お客様に「おいしそう！」「どれがおすすめ？」など質問されると張り切ってクッキーを手に取り、手渡しして販売しています。

自分たちで作ったクッキーを、自分たちで販売して買って頂ける。そんな場面を見ることが、更なる仕事への意欲になっているようです。

売上アップをめざし、季節限定商品なども開発中です。

(日中活動 工房1 原)





手作りマスクの寄付 いただきました！

手作りマスクで元気に活動



万騎が原地区の地域福祉団体

“かけはしねっと”さん「ありがとう！」



good job !

「good job!」では日々支援に携わる連の職員たちのモチベーションや、仕事をする上で大切にしている事など…様々な想いを職員の言葉でつづります。是非、ご一読ください！（広報委員）

佐藤さんからバトンを受け取りました。日中活動の仲宗根です。

福祉の仕事は7年目、連に来てからは1年弱が経ちました。私は子どもが好きで保育士を目指していたのですが、実習で障害児通園施設に行きそこで一人一人に寄り添った支援をしていた姿が印象に残り、私も障害のある方の支援をする仕事がしたい！と思った事がきっかけで、福祉の仕事に就きました。

私の所属する工房では、元気に声をかけてくれる方や握手を求めてくる方などそれぞれの方法で挨拶を交わし、1日が始まります。この工房ではクッキーの製造をしています。この秋に季節のクッキーを販売してみようと、利用者さんと一緒に話し合い…試作を繰り返し…新しく「パンプキン」味のクッキーを販売しています。これからも利用者さんの仕事への活力となるよう、クッキー作りを始めとした様々な活動により一層、力を入れていこうと思っています。

また、活動以外の場面では利用者さんから趣味の話をしてくれる事もあり、スタッフと利用者という関係だけではなく、友人の様な…それに近い関係でお喋りも楽しみながら、和やかな雰囲気の中で毎日を過ごさせて頂いています。

そんな私のパワーになっているのが“音楽”です！アイドルグループの曲の振付を覚えて踊ったり、歌うのも好きで、20代前半まではカラオケに月2~3回は行っていました。そして時には工房でダンスを披露もしています！

次は、同期の後見的支援室 絆 の梅本さんへバトンを渡したいと思います！



生活支援事業の様子をご紹介します！

自立課題



ボールペンを組み立て中！

生活支援事業では、自主性を大切に得意の幅を広げ、楽しんで過ごしてもらいたいという想いを持ちながら支援しています。

自立課題作業では、自由な時間の過ごしが苦手な方に向けて、障害特性に応じてボールペンやプリント・パズルなど集中して取り組む時間を設けています。

また、買い物では、こんがり工房（パン屋）に行き、好きなパンを買ってお金のやり取りと最後には「ありがとうございました！」と大きな声で挨拶する経験を積んでいます。最初は店内に入るのに緊張し後ずさりをする事もりましたが、レジスタッフとの関りに安心感を持てるようになりました。回数を重ねる毎にお店の雰囲気にも慣れて以前よりスムーズに入店出来るようになりました。

個別の過ごし方とは別に異年齢交流の場所でもあります。成人期の方が年下の子どもに優しく声をかけたりする場面も見られます。良い刺激を吸収し、様々な人々の心を豊かに感じ取る力も育つ環境でありたいと思います。（大野）

テレビ・玩具



リビングでは皆でテレビを観たり、好きな玩具で遊んでいます。

買い物



好きな物を買えた喜び♪

散歩



光や風を感じ心地良い♪

～いままでも これからも～

感謝を込めて

毎年9月に開催しておりましたふれあい祭りですが、今年度は残念ながらコロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせて頂きました。

“地域の皆様に感謝の気持ちを形にしよう”とのことで開催し、毎年多くの方々にお越しいただいておりました。「楽しみにしています」とお声を頂くことも多かったので私共も中止は残念で仕方ありませんでした。

そこで今回は、ただ中止にするのではなく、なにか別の形で地域の皆様に感謝の気持ちを伝えることはできないだろうか・・・と検討した結果、メッセージカードにオリジナル缶マグネット、パンとクッキーの引換券をつけて地域の皆様にお配りすることにしました。

次年度こそは開催したいという気持ちを込めて連の利用者さんと支援スタッフみんなで作り上げたものになります。届いた際にはぜひお手にとってみてくださいね。お楽しみに！

（実行委員 堤）



わたしたちのグループホーム

ファイン鶴ヶ峰

①畑をやってみた！

今年の夏は入居者さんたちと野菜とお花を育てました。入居者さんの中からも「オクラを作りたい」とお話しが出ていたりちょうどスタッフ間でも、畑の話が出ていたところだったので即決行!!でした。種類は枝豆とオクラ、朝顔です。

苗は買わずに、種まきから始めました。夏の日差しの元、すくすくと成長し変化していく野菜たちの様子に驚きの入居者さん！初めてのオクラは、想像を超える大きさに成長し待望のオクラが収穫できた時、ひとりの入居者さんの表情は温かく優しい表情をみせてくれました。自分たちで作って食べる喜び、この気持ちを今後も感じていけたらと思います。



②三ツ池公園&トレッサ横浜に行ってみたよ！

「ドライブがしたい」という、入居者 N さんの希望を叶える為いざ！彼女の出生の地、鶴見へ！ 鶴見では、三ツ池公園を散策し、トレッサ横浜で、お買い物も楽しむ！ こんなプランで、久しぶりの外出となりました。ドライブ中の窓の外は、鶴見までの道のりや、景色が流れていました。彼女は子供の頃に鶴見を離れたとの事で、三ツ池公園での思い出は無いようでしたが、園内の不思議なオブジェを観て笑っていたので新しい思い出ができた様でした。

トレッサ内では各自自由行動。みなそれぞれ計画し目的を持ち館内を移動。広い館内では度々、入居者さん同士が遭遇！「こんな広い所で…」と笑う O さん。Y さんがお買い物でゲットしたのは、チョコちゃんの拡声器。ホームへ戻り直ぐ電池を入れ使用開始！嬉しそうな表情で使う Y さんの様子に、ホーム内も和みました。

気楽に外出がしにくいご時世ではありますが、だからどこにも行かない何にもしない…ではなく、暮らしの中で一緒に楽しみを見つけていきたいと思いました。

③夕食は、お祭りパーティ！（パリピになったみんな）

毎年恒例！ホームの納涼祭も、中止せざるを得ない今年度。少しでも日常の中で、気分転換できる瞬間を！ということで、ホームでの夕食を「お祭り風メニュー」にして皆で食卓を囲んでみました。開始の挨拶は、Y さん。自身の言葉も織り交ぜ開会宣言をしてくれました！ 雰囲気作りは大切！連から借りたハッピーを着て、リビングの飾り付けもして。お腹いっぱい！お祭り気分な夕食になりました。



【主な予定】

● **第13回旭区地域支援フォーラム**
12月13日(日)オンラインにて開催

● **納会(連・日中活動)**
12月22日(火)

● **年末年始休業のお知らせ**
12月29日～1月3日まで
サポートセンター連、全ての事業をお休みさせていただきます。

● **年始の会(連・日中活動)**
1月4日(月)10時45分～2F 食堂にて

【ボランティアさん募集】

サポートセンター連では、日中活動を中心に、ボランティアさんを募集しています。ボランティアに興味をお持ちの方は、ぜひ下記までご連絡ください。

問合せ先：360-9778 担当:成田

～編集後記～

朝晩めっきり涼しくなってきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、皆さんはどの秋を堪能されていますでしょうか。

今年も残すところ後数か月、思い返してみると、激動の1年だったかと思えます。コロナウイルスによる新しい生活様式、安倍総理の辞任、オリンピックの延期など、大きく変化した年でしたね。毎日マスクをつける生活にも慣れてきたものです。

人間は環境に適應する能力があるようで、違和感があっても時間が経つとそれが当たり前を感じるそうです。私たちが普段、幸せに生活ができていることも慣れてくると、「有り難い」気持ちを忘れてしまいがちです。同様に、悪い習慣や状況に慣れると、心や体をすり減らしながらも、それが当たり前のようになってしまいます。

こんな時期だからこそ、一度立ち止まり、今の自分を振り返ってみても良いかもしれませんね。

最後に、この広報誌を手に取り、読んで下さってありがとうございます。少しでも皆さんの糧になれば幸いです。

(広報委員 安倍)

なかなかイベントの開催が難しい今年度、9月30日(水)秋晴れの中やと地域交流ミニイベントを開催致しました。

コロナ対策を万全に密を防ぐ為、野外で行うのは初の試みのおはなし会。題して!「青空おはなし会」連の駐車場で開催しました。



当日は、連のおもちゃ文庫に遊びに来てくれる方を中心に

11組23名の親子さんが集まって下さり、久しぶりに元気な子供たちと私達職員、そして連の日中活動の利用者さんも一緒に、ほっこりとした楽しい時間を過ごしました。

この「青空おはなし会」を快く引き受けて下さったのは長年に渡り連でおもちゃ文庫の子供達に、定期的におはなし会を開催して下さっているボランティア団体「おはなし つくんこ」の皆さんでした。

このコロナ禍で練習どころか、集まることも難しい中、引き受けて下さいました。今年度初の顔合わせ、久しぶりに再会できたつくんこさん達。つくんこメンバーの皆さん同士も、お久しぶりのご様子でした。



つくんこの皆さんは「集まらないから練習不足!」とおっしゃって居ましたが…いえいえそこは流石でした。エプロンシアターや手遊びでは参加してくれた親子さんからも、元気な声が出ていましたしカエルの合唱団でも、前にでて楽しそうな子供たちの姿が見れ、つくんこさんの子供達を盛り上げ、楽しませてくれる…変わらぬ姿がそこにはありました。

コロナ禍でも工夫をし、安全を図り地域の親子さんが楽しめる場所。またつくんこさんの様な、地域の団体さんが活躍できる場を提供し続ける事も地域交流のひとつだと感じるイベントでした。

地域交流担当 禾木

●訪問の家ホームページ

<https://www.houmon-no-ie.or.jp/>

●連のブログ(訪問の家ブログ)

<https://www.houmon-no-ie.or.jp/blog/ren/>

●Facebook

<https://www.facebook.com/supportcenterren/>

地域活動ホームサポートセンター連

検索